



ALLIANCEBERNSTEIN®

交付運用報告書

アライアンス・バーンスタイン・グローバル・
ハイ・インカム・オープンA（為替ヘッジなし）

[愛称：NK・コンパス（羅針盤）]

追加型投信／内外／債券

第275期（決算日2020年6月10日） 第276期（決算日2020年7月10日） 第277期（決算日2020年8月11日）

第278期（決算日2020年9月10日） 第279期（決算日2020年10月12日） 第280期（決算日2020年11月10日）

作成対象期間（2020年5月12日～2020年11月10日）

第280期末（2020年11月10日）	
基準価額	4,971円
純資産総額	14,706百万円
第275期～第280期	
騰落率	8.6%
分配金（税込み）合計	120円

（注）騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数第2位を四捨五入して表示しております。

（注）純資産総額の単位未満は切り捨てて表示しております。

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ハイ・インカム・オープンA（為替ヘッジなし）」は、このたび第280期の決算を行いました。

当ファンドは、マザーファンドを通じて世界中の公社債の中から相対的に投資価値の高い証券に分散投資することにより、インカム・ゲインの確保とともにキャピタル・ゲインの獲得をめざすアクティブ運用を行います。第275期から第280期もこれに沿った運用を行ってまいりましたので、その運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

アライアンス・バーンスタイン株式会社

〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目1番6号 日比谷パークフロント

お問合せ先 お客様窓口

電話番号 03-5962-9687（受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで）

ホームページアドレス <https://www.alliancebernstein.co.jp>

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。

○運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。書面での交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

○当ファンドは、信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、アライアンス・バーンスタイン株式会社のホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。

<「運用報告書（全体版）」の閲覧・ダウンロード方法>

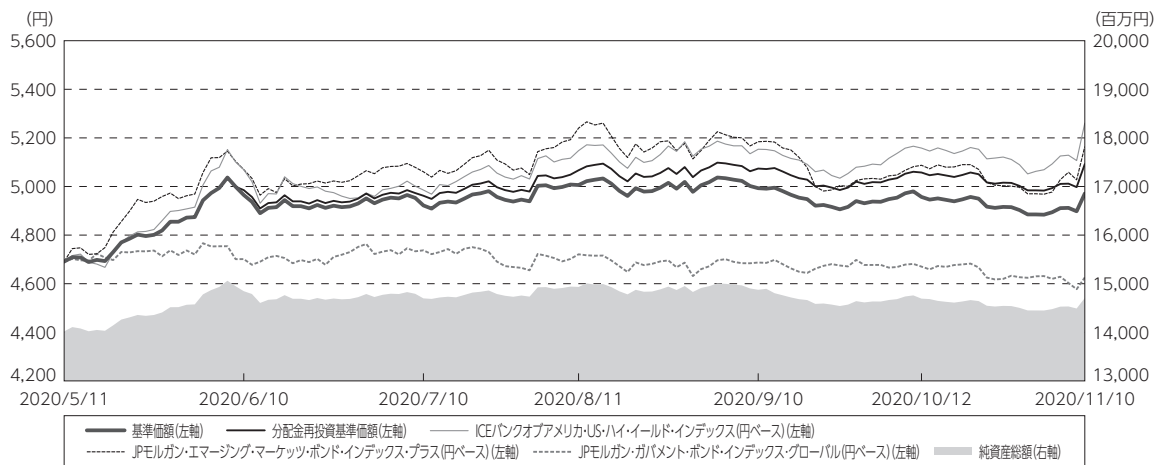
上記ホームページアドレスにアクセス ➡ 「基準価額一覧（国内投資信託）」を選択 ➡ 「債券型」の表内の当ファンド名を選択 ➡ 「運用報告書（全体版）」のリンクを選択

運用経過

アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ハイ・インカム・オープンA（為替ヘッジなし）（以下「当ファンド」といことがあります。）の運用状況をご報告いたします。

作成期間中の基準価額等の推移

（2020年5月12日～2020年11月10日）



第275期首：4,691円

第280期末：4,971円（既払分配金（税込み）：120円）

騰落率：8.6%（分配金再投資ベース）

- （注）分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- （注）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- （注）上記騰落率は、小数第2位を四捨五入して表示しております。
- （注）分配金再投資基準価額および参考指数は、作成期首（2020年5月11日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- （注）参考指数は、ICEバンクオブアメリカ・US・ハイ・イールド・インデックス（円ベース）、JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス（円ベース）およびJPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・グローバル（円ベース）です。詳細はP5をご参照ください。

○基準価額の推移

基準価額（分配金（税込み）再投資）は、前作成期末比8.6%の上昇^{*}となりました。

※基準価額の騰落率は、各決算期末の税込み分配金を当該決算日の基準価額で全額再投資したと仮定した場合のパフォーマンスを示しています。税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資家の皆様の実際の投資成果を示すものではありません。

○基準価額の主な変動要因

値上がり要因

- ・ 保有債券の利息収入
- ・ 資産担保証券、エネルギー関連や金融関連のハイイールド社債の価格上昇
- ・ 金融関連の投資適格社債の価格上昇

値下がり要因

- ・ 米国やイギリスの国債の価格下落
- ・ 円高ドル安の進行

1 万口当たりの費用明細 (2020年5月12日～2020年11月10日)

項 目	第275期～第280期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 42	% 0.855	(a) 信託報酬＝作成期間中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(19)	(0.386)	委託した資金の運用、基準価額の算出、法定書類作成等の対価
(販 売 会 社)	(22)	(0.441)	購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
(受 託 会 社)	(1)	(0.028)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	1	0.011	(b) その他費用＝作成期間中のその他費用÷作成期間中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(0)	(0.006)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.001)	その他は、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等
合 計	43	0.866	
作成期間中の平均基準価額は、4,921円です。			

(注) 作成期間中の費用（消費税等の課されるものは消費税等相当額を含めて表示）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。ただし、平均基準価額は円未満切り捨て。

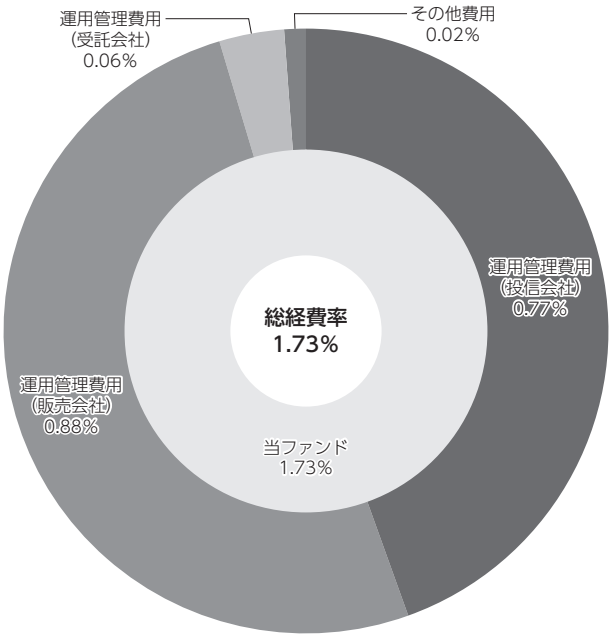
(注) その他費用は、当ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は、1 万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

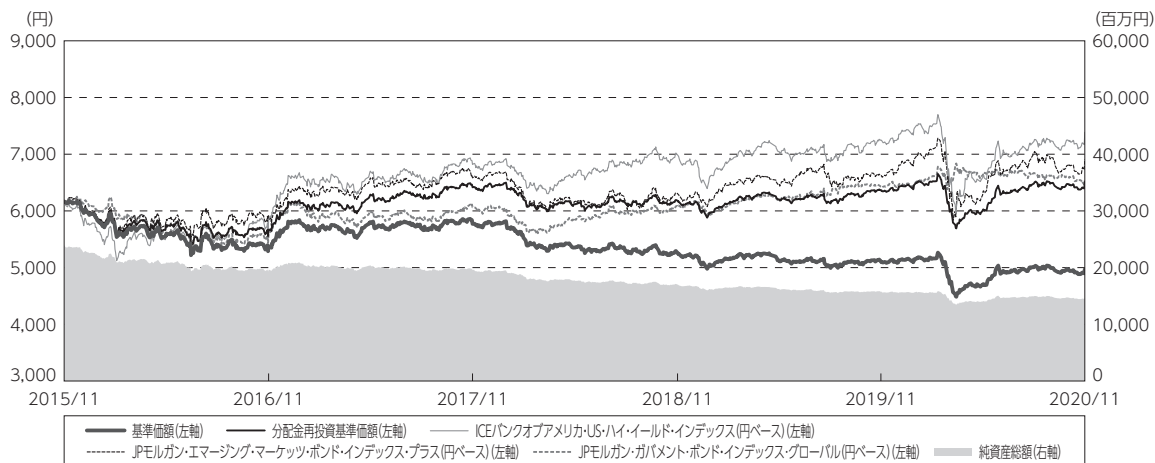
作成対象期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成対象期間の平均受益権口数に作成対象期間の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.73%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。
(注) 各比率は、年率換算した値です。
(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。
(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2015年11月10日～2020年11月10日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかにについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 分配金再投資基準価額および参考指数は、2015年11月10日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2015年11月10日 決算日	2016年11月10日 決算日	2017年11月10日 決算日	2018年11月12日 決算日	2019年11月11日 決算日	2020年11月10日 決算日
基準価額 (円)	6,168	5,371	5,770	5,257	5,103	4,971
期間分配金合計(税込み) (円)	—	300	300	300	300	250
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 8.1	13.2	△ 3.7	2.9	2.4
ICEバンクオブアメリカ・US・ハイ・イールド・インデックス (円ベース) 騰落率 (%)	—	△ 5.4	16.9	2.5	3.7	2.0
JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス (円ベース) 騰落率 (%)	—	△ 4.1	11.3	△ 4.2	5.0	4.4
JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・グローバル (円ベース) 騰落率 (%)	—	△ 9.4	8.5	0.4	5.6	1.7
純資産総額 (百万円)	23,888	19,598	19,580	17,007	15,734	14,706

- (注) 上記騰落率は、小数第2位を四捨五入して表示しております。
 (注) 純資産総額の単位未満は切り捨てて表示しております。
 (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
 (注) 参考指数は、ICEバンクオブアメリカ・US・ハイ・イールド・インデックス (円ベース)、JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス (円ベース) およびJPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・グローバル (円ベース) です。詳細はP5をご参照ください。

●参考指数に関して

○ICEバンクオブアメリカ・US・ハイ・イールド・インデックス（円ベース）

ICEバンクオブアメリカ・US・ハイ・イールド・インデックス^(*)は米ドル建てで発行されたハイ・イールド・ボンド市場の動きを示す指数です。ICEバンクオブアメリカ・US・ハイ・イールド・インデックス^(*)（円ベース）は、ICEバンクオブアメリカ・US・ハイ・イールド・インデックス^(*)（米ドルベース）をもとに、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて委託会社が円ベースに換算したものです。

当資料で使用している指数等に係る著作権等の知的財産権、その他一切の権利は、当該指数等の開発元または公表元に帰属します。

（*）ICEバンクオブアメリカ・US・ハイ・イールド・インデックス：ICE BofA US High Yield Index

○JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス（円ベース）

JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラスは、エマージングの債券市場の動きを表す指数で、新興国が発行する米ドル建ての国債を対象に時価総額ベースで算出されたものです。JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス（円ベース）は、JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス（米ドルベース）をもとに、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて委託会社が円ベースに換算したものです。

当資料で使用している指数等に係る著作権等の知的財産権、その他一切の権利は、当該指数等の開発元または公表元に帰属します。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・グローバル（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・グローバルは、先進国の債券市場の動きを表す指数で、先進国が発行する国債を対象に算出されたものです。JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・グローバル（円ベース）は、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・グローバル（米ドルヘッジベース）をもとに、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて委託会社が円ベースに換算したものです。

当資料で使用している指数等に係る著作権等の知的財産権、その他一切の権利は、当該指数等の開発元または公表元に帰属します。

投資環境

（2020年5月12日～2020年11月10日）

当作成期の債券市場については、ハイイールド社債および新興国債券は堅調に推移し、先進国国債は相対的に弱い動きとなりました。また、為替市場では円高ドル安が進行しました。

先進国の国債：

米国国債は、当作成期初から2020年6月上旬にかけて、市場予想を上回る雇用統計を受け景気の早期回復への期待が高まったことから金利は上昇（価格は下落）しました。その後8月初旬にかけて、新型コロナウイルスの感染再拡大や米中関係の一段の悪化を懸念し金利は低下（価格は上昇）しましたが、その後当作成期末にかけては再び上昇しました。

ドイツ国債は、当作成期初から2020年6月上旬にかけては、米回国債金利の上昇に伴って金利は上昇しました。その後は、新型コロナウイルスの感染再拡大への懸念が高まり景気の先行き不透明感などから金利はおおむね低下基調で推移しました。当作成期末はワクチン開発への期待から上昇しました。

日本国債は、新型コロナウイルスの国内感染者数増加に対する懸念や、ワクチン開発への期待などに左右され、当作成期を通じて方向感のない展開となりました。

ハイイールド社債：

経済活動正常化への期待が高まったことなどを背景に米国株式市場が堅調に推移したことを受けて上昇しました。世界的な低金利を背景とした利回り需要の高まりも当市場に追い風となりました。

新興国債券：

堅調な米国株式市場の流れやドル安の進展などを受けて上昇基調で推移しました。アルゼンチン、エクアドルについて、2020年8月に主要債権者団との債務再編交渉がまとまったことも当市場に追い風となりました。

為替市場：

円ドル・レートは、当作成期初から2020年6月上旬にかけては、米回国債金利が上昇したことに伴い円安ドル高が進行しました。その後は米国での新型コロナウイルスの新規感染者数の増加や、米中間の緊張の高まりなどを受けて円高ドル安基調で推移しました。

当ファンドのポートフォリオ

（2020年5月12日～2020年11月10日）

<当ファンド>

当ファンドはアライアンス・バーンスタイン・グローバル・ハイ・インカム・マザーファンド（以下「マザーファンド」ということがあります。）受益証券を主要投資対象とし、信託財産の成長を図ることを目的としています。

マザーファンドは先進国の投資適格債への投資により、中長期的に安定した収益を確保するとともに、ハイイールド社債や新興国債券などにも投資を行い、高水準のインカム・ゲインの確保とキャピタル・ゲインの獲得を目指しています。

当ファンドは当作成期を通じてほぼ全額をマザーファンド受益証券に投資しました。当ファンドの実質外貨建資産については為替ヘッジを行いませんでした。

<マザーファンド>

世界中の公社債の中から相対的に投資価値が高い証券に分散投資を行います。運用にあたっては当作成期も引き続き債券セクター間の投資収益率の格差に着目し、より高い収益が期待される債券セクターに機動的に資産配分を行いました。

その結果、ハイイールド社債や新興国債券の組入比率が上昇した一方、先進国の国債の組入比率は低下しました。

当作成期間中の売買では、先進国の国債については、米国国債を一部売却しました。先進国の投資適格社債については、金融関連銘柄などを買い増した一方、エネルギー関連銘柄などを一部売却しました。ハイイールド社債については、情報・テクノロジー関連銘柄などを買い増した一方、小売関連銘柄などを一部売却しました。新興国債券については、エジプト国債などを買い増した一方、アンゴラ国債などを一部売却しました。

<公社債のセクター別組入比率（マザーファンド）>

前作成期末（2020年5月11日現在）

セクター	比率
ハイイールド社債	31.7%
先進国の国債	26.7%
新興国債券	20.3%
先進国の投資適格社債等	19.9%
その他資産	0.2%
現金等	1.2%



当作成期末（2020年11月10日現在）

セクター	比率
ハイイールド社債	34.7%
新興国債券	23.6%
先進国の国債	20.0%
先進国の投資適格社債等	19.8%
その他資産	0.2%
現金等	1.7%

（注）組入比率は純資産総額に対する評価額の割合（それぞれ小数第2位を四捨五入）。

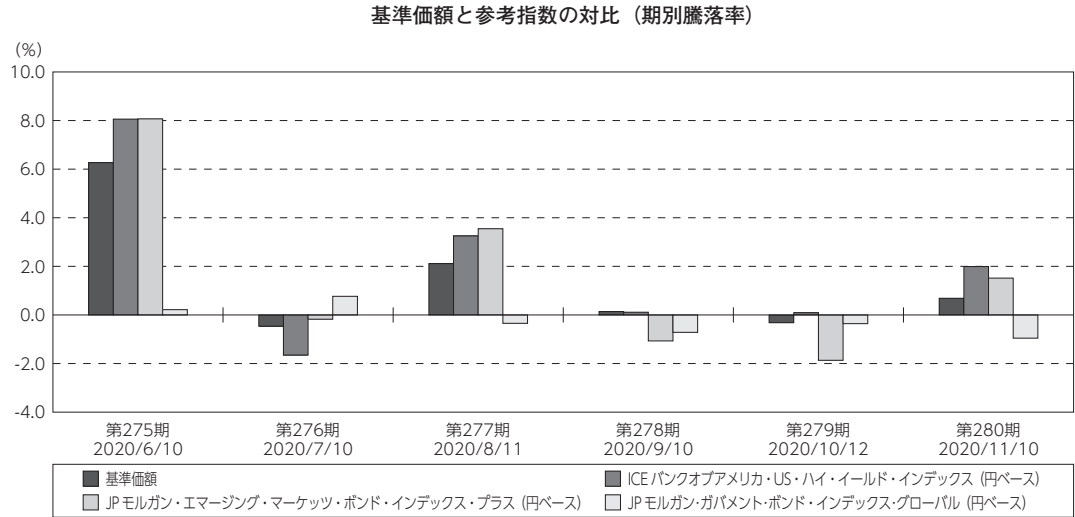
（注）「その他資産」は、株式、新株予約権付社債（転換社債）の合計。

（注）格付はムーディーズとS&Pのうちいずれか高い方を採用して集計したものです。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2020年5月12日～2020年11月10日)

当ファンドは、特定の指数を上回ることを目指す運用を行っていないため、ベンチマークを設けておりません。以下のグラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。
(注) 参考指数は、ICEバンクオブアメリカ・US・ハイ・イールド・インデックス（円ベース）、JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス（円ベース）およびJPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・グローバル（円ベース）です。詳細はP 5をご参照ください。

分配金

(2020年5月12日～2020年11月10日)

当作成期間の収益分配については、配当等収益に基づき、基準価額水準、市場動向等を勘案して決定しました。各決算期の分配金については、以下をご覧ください（当作成期間合計：120円）。なお、収益分配に充てなかった利益については、信託財産内に留保し「運用の基本方針」に基づいて運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第275期	第276期	第277期	第278期	第279期	第280期
	2020年5月12日～ 2020年6月10日	2020年6月11日～ 2020年7月10日	2020年7月11日～ 2020年8月11日	2020年8月12日～ 2020年9月10日	2020年9月11日～ 2020年10月12日	2020年10月13日～ 2020年11月10日
当期分配金	20	20	20	20	20	20
(対基準価額比率)	0.401%	0.405%	0.398%	0.399%	0.402%	0.401%
当期の収益	20	14	20	13	14	16
当期の収益以外	－	5	－	6	5	3
翌期繰越分配対象額	227	221	222	215	210	207

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 「当期の収益」、「当期の収益以外」は小数以下切り捨てで算出しているため合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

(注) 上記表は、経費控除後の数値です。

今後の運用方針

<当ファンド>

引き続き、マザーファンド受益証券にほぼ全額投資する方針です。

<マザーファンド>

世界経済は、欧米などの一部の地域で再びロックダウンが強化されたことから、引き続き慎重な見極めが必要ではあるものの、主要国が矢継ぎ早に繰り出している過去最大級の財政政策や金融政策などが経済活動回復の追い風となり、2021年はプラス成長となる見込みです。

先進国のうち、米国経済は、2020年7-9月期の実質国内総生産（GDP）成長率は大きく持ち直し、3四半期ぶりのプラスかつ過去最大の伸びとなりました。2021年は、現在までに打ち出されている3兆ドルを超える経済対策が後押しとなりプラス成長に回復すると予想しています。

ハイイールド社債については、引き続きファンダメンタルズは悪化しており、足元のデフォルト率は上昇していますが、上昇ペースは鈍化していることから、2021年には低下に転じるとみています。需給環境は起債ペースが高止まりしてはいるものの、BB格を中心とする魅力的な発行条件により強い需要が続いています。米国大統領選挙などリスク材料をめぐりボラティリティが高まる局面も想定されることから、運用にあたっては、デュレーションが短く、十分に分散されたディフェンシブなポートフォリオを維持しつつ、ファンダメンタルズ対比で割安と判断する銘柄についても選別的に組み入れていく方針です。

新興国債券については、引き続き新型コロナウイルスやコモディティ価格などをめぐる不確実性はあるものの、新興国債券市場への資金流入は継続しています。一方で、米中関係ならびに米国大統領選挙の影響について注視する必要がある状況が続いています。引き続き、構造改革が進展するなど財政改善が見込める国や悪材料を十分に織り込み、価格面での魅力が出てきた国に投資妙味があると考えています。一方、対外収支の脆弱な国については慎重なスタンスとします。

※将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

お知らせ

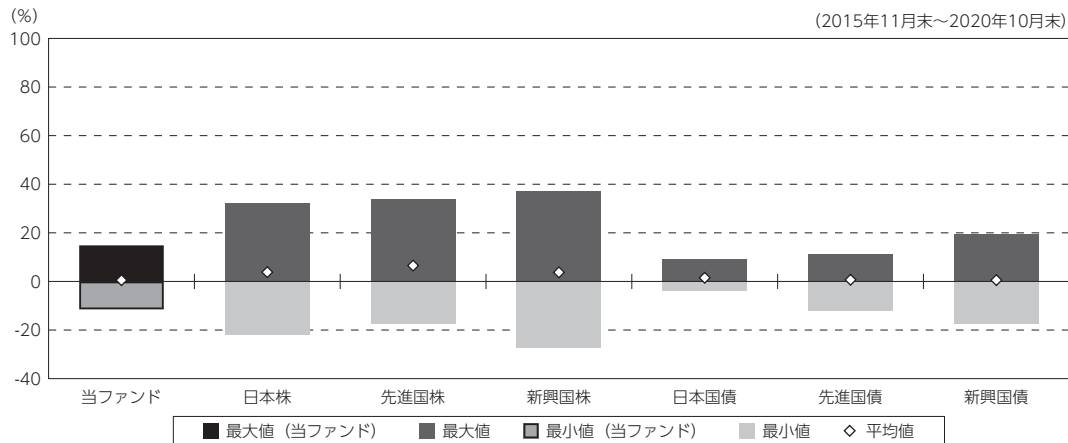
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／内外／債券	
信 託 期 間	無期限	
運 用 方 針	インカム・ゲインの確保とともに、信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。	
主 要 投 資 対 象	アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ハイ・インカム・オープンA（為替ヘッジなし）	アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ハイ・インカム・マザーファンドの受益証券を主要投資対象とします。
	アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ハイ・インカム・マザーファンド	米国および米国外の投資適格国の国債・政府機関債、米国内のアセット・バック証券、米国内外の投資適格社債および高利回り社債、エマージング・カンントリー公社債を主な投資対象とします。
運 用 方 法	①マザーファンドの受益証券への投資を通じて、米国をはじめ世界中の公社債の中から、相対的に投資価値の高い証券に分散投資することにより、インカム・ゲインの確保とともにキャピタル・ゲインの獲得をめざします。 ②債券セクター間の投資収益率の格差に着目し、より高い収益が期待される債券セクターに機動的にウェートをかけた資産配分を行い、アクティブに運用します。 ③運用は、アライアンス・バーンスタイン（AB）のグループ会社に委託します。 ④毎月決算を行い、投資する公社債のインカム・ゲイン等をもとに分配します。 ⑤外貨建資産については原則として為替ヘッジを行いません。 ⑥ファミリーファンド方式で運用します。	
分 配 方 針	毎月決算を行い、原則として以下の方針により分配を行います。 ①分配対象額は、経費控除後の利子等収益および売買益（評価益を含みます。また、繰越欠損金がある時は、これを控除します。）等の全額とします。 ②分配金は、委託者が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合は、収益分配を行わないこともあります。 ③留保益の運用については、特に制限を設けず、「基本方針」および「運用方法」に基づいて運用を行います。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国国債	新興国国債
最大値	14.9	32.2	34.1	37.2	9.3	11.4	19.3
最小値	△ 11.5	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	0.5	3.8	6.5	3.7	1.5	0.7	0.5

(注) 上記グラフは、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて、2015年11月～2020年10月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大・最小・平均を表示し、定量的に比較できるように作成したものです。なお、すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 当ファンドの年間騰落率は分配金再投資基準価額に基づき計算した騰落率ですので、実際の基準価額に基づき計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

《各資産クラスの指数》

日本株……TOPIX（東証株価指数、配当込み）

先進国株……MSCI - KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株……MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債……NOMURA - BPI 国債

先進国国債……FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債……JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド (円ベース)

※各指数についての説明は、P16の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

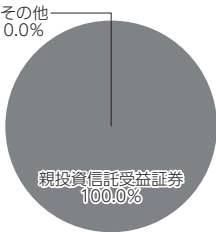
組入資産の内容 (2020年11月10日現在)

組入ファンド

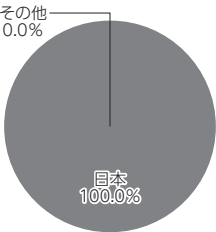
銘柄名	第280期末
	%
アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ハイ・インカム・マザーファンド	100.0
組入銘柄数	1銘柄

(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

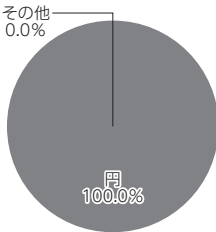
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。
(注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。

純資産等

項 目	第275期末	第276期末	第277期末	第278期末	第279期末	第280期末
	2020年6月10日	2020年7月10日	2020年8月11日	2020年9月10日	2020年10月12日	2020年11月10日
純 資 産 総 額	14,845,958,611円	14,698,078,015円	14,934,138,113円	14,874,953,824円	14,692,412,647円	14,706,125,125円
受 益 権 総 口 数	29,900,152,995口	29,864,799,663口	29,833,397,607口	29,792,111,620口	29,637,746,126口	29,581,964,509口
1万口当たり基準価額	4,965円	4,922円	5,006円	4,993円	4,957円	4,971円

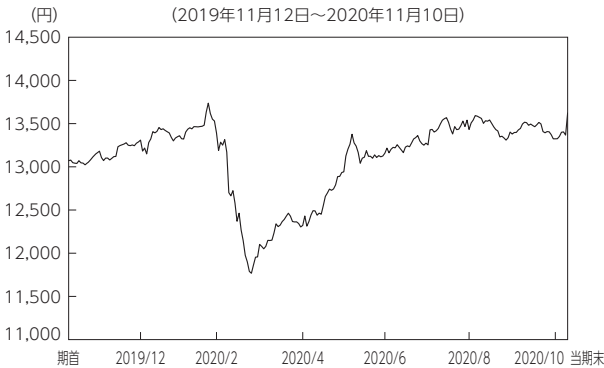
(注) 当作成期間（第275期～第280期）中における追加設定元本額は325,042,609円、同一部解約元本額は630,150,785円です。

組入ファンドの概要

アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ハイ・インカム・マザーファンド

当マザーファンドの当計算期間の運用経過等については、「運用報告書（全体版）」をご覧ください。運用報告書（全体版）の入手方法は、表紙ページの一冊下の段に記載しております。

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2019年11月12日～2020年11月10日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
	円	%
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	0 (0)	0.001 (0.001)
(b) (そ の 他 費 用) (保 管 費 用) (そ の 他)	4 (2) (2)	0.030 (0.012) (0.018)
合 計	4	0.031

期中の平均基準価額は、13,092円です。

- (注) 上記項目の概要につきましては、運用報告書（全体版）をご参照ください。
(注) 期中の費用（消費税等の課されるものは消費税相当額を含めて表示）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
(注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。ただし、平均基準価額は円未満切り捨て。
(注) 各比率は、1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

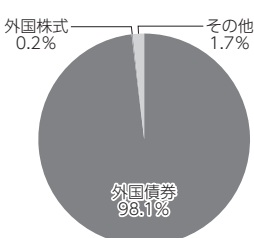
【組入上位10銘柄】

(2020年11月10日現在)

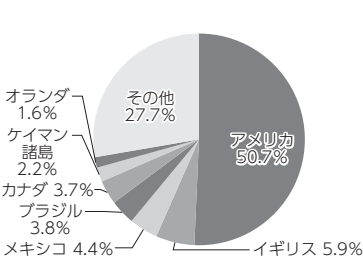
	銘 柄 名	業 種 / 種 別 等	通 貨	国（地 域）	比率
					%
1	US TREASURY 7.625% 2025/2/15	国債証券	米ドル	アメリカ	7.3
2	UK TREASURY 4.25% 2040/12/7	国債証券	英ポンド	イギリス	2.7
3	CANADIAN GOVERNMENT 2.5% 2024/6/1	国債証券	カナダドル	カナダ	2.0
4	MEXICAN BONOS 10% 2024/12/5	国債証券	メキシコペソ	メキシコ	1.4
5	US TREASURY 7.125% 2023/2/15	国債証券	米ドル	アメリカ	1.4
6	SWEDISH GOVERNMENT 5% 2020/12/1	国債証券	スウェーデンクローナ	スウェーデン	1.2
7	REPUBLIC OF BRAZIL 7.125% 2037/1/20	国債証券	米ドル	ブラジル	1.0
8	SPANISH GOVERNMENT 4.2% 2037/1/31	国債証券	ユーロ	スペイン	1.0
9	BELGIUM KINGDOM 3.75% 2045/6/22	国債証券	ユーロ	ベルギー	1.0
10	MEXICAN BONOS 5.75% 2026/3/5	国債証券	メキシコペソ	メキシコ	0.9
組入銘柄数		635銘柄			

- (注) 比率は、純資産総額に対する割合です。
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。
(注) 国（地域）につきましては発行国を表示しております。

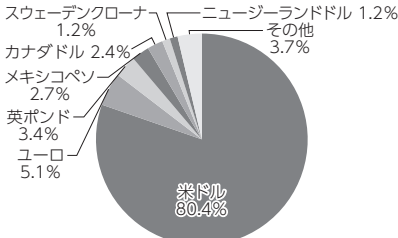
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



- (注) 比率は当マザーファンドの純資産総額に対する割合です。
(注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。

【直物為替先渡取引残高】

(2020年11月10日現在)

銘 柄 別	取引契約残高			
	当期末想定元本額			
	買 建 額		売 建 額	
	外貨建金額	邦貨換算金額	外貨建金額	邦貨換算金額
米ドル	千米ドル	百万円	千米ドル	百万円
(ブラジルリアル)	—	—	1,172	123
(インドネシアルピア)	—	—	1,063	111

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

○TOPIX（東証株価指数、配当込み）

TOPIX（東証株価指数、配当込み）は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

○MSCI – KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI – KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○NOMURA – BPI国債

NOMURA – BPI国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA – BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

○FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース)

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。